

無藤隆先生の著書「愛と知の循環」 としての保育」を巡っての質疑の会

2026.3.14 (土)

13:30～16:30 受付開始13:00

参加申込QRコード
参加費無料



「愛と知の循環」、質問募集！

今回は、講演会ではなく、無藤先生の著書「愛と知の循環」としての保育」を巡っての質疑の会という初の試みです。

そのための質問を前もって募集します。

本にあることや、また保育を進めて疑問を感じることや悩むことなどいろいろな事柄について「愛と知の循環」理論からどう捉えられるかを聞いてみたいということでも結構です。できる限り、難しい理論というより、具体的な実践での問題について質問に答える形で分かりやすく解説を加えたいと思います。質問あるいは聞いてみたいことをお出しください。(by.無藤先生)

当日は1時間半の時間を質疑に当てる予定です。その時間で質問に答えていただきます。当日の対面参加者は、その場で出すことも可能です。ただ、準備の都合上なるべく前もって質問をお寄せください。なお、当日の会は録画して、いずれ本学のサイトで公開する予定です。

「愛と知の循環」の保育論の動画

2025年7月13日(日)に本学で行われた日本乳幼児教育・保育者養成学会乳児保育部会「乳児保育フォーラム」で撮影した動画と文字起こし資料を、無料公開しております。事前にご覧いただくと理解が深まり、質問も書きやすくなると思います。(右QRコードからサイトにいけます。)



プログラム

13:30～13:40 開会挨拶・企画趣旨

13:40～15:10 第1部

「愛と知の循環」としての保育」を巡っての質疑
応答 無藤隆先生

15:10～15:25 休憩

15:25～16:25 第2部

「愛と知の循環」としての保育」を巡っての対談
無藤先生と北野幸子先生(神戸大学)

会場

大阪総合保育大学 C学舎

大阪市東住吉区照ヶ丘矢田2-20-8

対面参加 150 名

ZOOMオンライン参加 100 名

■ 事前申込 2026.3.10まで

定員になり次第締め切ります。

お早めにお申し込みください。

2025 年
12 月 22 日
発売

保育とは「愛と知の循環である」——

数十年にわたり日本の保育・教育界をリードし続ける無藤隆氏の集大成。知的な関わりと情動的な関わりが循環的に発展するという在り方、その実現が保育・幼児教育の要であるという「愛と知の循環」論をはじめ、これからの幼児教育・保育の理論的基盤を構築するための 25 章。

「愛と知の循環」としての保育 ——世界を愛することを学ぶ

無藤 隆 [著]

四六・432 頁・本体 3,000 円＋税
ISBN：978-4-7628-3306-9

本チラシをお持ちの方限定で、本書
『「愛と知の循環」としての保育』を含めた

北大路書房の関連書籍を**特別価格**にて
販売します！

例えば、
『「愛と知の循環」としての保育』は
通常 3,300 円（税込）のところ、

特別価格 2,805 円!!!（税・送料込）

その他関連書も**特別価格**にて販売！
詳しくは右 QR コードもしくは
下記 URL よりアクセスし、説明を
よくお読みのうえお申込ください。

<https://forms.gle/3UR8dMfmn4kbfy8z7>



〈著者〉

無藤 隆（むとう・たかし）

1946 年 東京都に生まれる。
1972 年 東京大学教育学部教育心理学科を卒業。
1975 年 同大学大学院教育学研究科修士課程修了。
1977 年 同大学大学院教育学研究科博士課程中退。
1977 年 東京大学新聞研究所助手。
1980 年 聖心女子大学文学部講師。
1987 年 お茶の水女子大学家政学部助教授。
1993 年 同大学生生活科学部教授。
2001 年 同大学附属小学校校長（兼任）。
2003 年 同大学子ども発達教育研究センター教授。
2004 年 白梅学園短期大学学長、お茶の水女子大学客員教授。
2005 年 白梅学園大学学長。
2007 年 同大学子ども学部教授。
2017 年 同大学定年退職、同大学大学院特任教授、同大学名誉教授。
2020 年 同大学大学院客員教授。
2025 年 瑞宝中綬章受章。
現 在 白梅学園大学名誉教授。

〈主著〉

『生活科の心理学』初教出版、1990 年。
『子どもの生活における発達と学習』ミネルヴァ書房、1992 年。
『体験が生きる教室』金子書房、1994 年。
『赤ん坊から見た世界（講談社現代新書）』講談社、1994 年。
『協同するからだことば』金子書房、1997 年。
『自ら学ぶ子を育てる』金子書房、1998 年。
『早期教育を考える（NHK ブックス）』日本放送出版協会、1998 年。
『知的好奇心を育てる保育』フレーベル館、2001 年。
『学校のリ・デザイン』東洋館出版社、2001 年。
『現場と学問のふれあうところ』新曜社、2007 年。
『幼児教育の原則』ミネルヴァ書房、2009 年。
『幼児教育のデザイン』東京大学出版会、2013 年。
『「愛と知の循環」としての保育実践』（共編著）北大路書房、2025 年。
その他多数。

目 次

はじめに——要領・指針を深く読み替えていくことに向けて

序 章 人間の権利の在り方から幼児教育・保育の実現を進める
——本書で主張したいことを要約として示す

……第Ⅰ部 幼児教育・保育を考える前提を可視化する……

- 第 1 章 幼児教育・保育の問題への姿勢とは
- 第 2 章 保育実践を学ぶことへ
- 第 3 章 家庭と区別する
- 第 4 章 教育・保育への見直しの視点
- 第 5 章 幼児教育・保育の世界に入って、その前提をさらに考える

……第Ⅱ部 幼児教育・保育とは何であるのか……

- 第 6 章 要領・指針の文言解釈を超えてその視点を捉え直す
- 第 7 章 幼児教育を捉え直す
- 第 8 章 子どもの権利を幼児教育の原点に置く
- 第 9 章 園という独自な場での教育・保育の基本となること
- 第 10 章 幼児教育・保育を捉える考え方を根底から考え直す
- 第 11 章 保育者の主体的な在り方とは

第 12 章 幼児教育・保育の空間としての在り方

……第Ⅲ部 「愛と知の循環」としての保育を考える……

- 第 13 章 「愛と知の循環」が世界への愛を育む
- 第 14 章 プロセス性から世界性へ
- 第 15 章 幼児が遊ぶことから遊び志向のベダゴジーへ
- 第 16 章 幼児が学ぶとは何か
- 第 17 章 園における子どもの経験としての空間の在り方
- 第 18 章 保育者が保育するとは①
——保育における専門性とは何か
- 第 19 章 保育者が保育するとは②
——よりよい実践に向けて改めて考えておきたいこと
- 第 20 章 共主体としての保育
- 第 21 章 感情の共同体へ
- 第 22 章 世界性に向けて保育の内容を捉え直す
- 第 23 章 保育の生成運動体へ
- 終 章 私の仕事の振り返りから

あとがき

北大路書房

〒603-8303 京都府京都市北区紫野十二坊町 12-8

TEL：075-431-0361 FAX：075-431-9393 e-mail：eigyo@kitaohji.com HP：https://www.kitaohji.com